

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 24 日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	伊藤泰生
研究課題	大規模自然災害が企業の探索的・活用的行動に与える影響について				
研究キーワード	事業戦略、探索と活用、 自然災害、パネルデータ 分析	当年度計画に対す る達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	13. 気候変動に具体的な 対策を	8. 働きがいも経済成長 も	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本年度の研究はおおむね順調に進み論文のレビューやデータの収集を行った。昨年度に行っていた研究成果を査読付き論文や投稿・採択、学会発表などの成果を収めた。また今年度取り組んでいた個人研究を論文にまとめ、千葉商大論叢に投稿した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>“Organizational Ambidexterity and Firm Performance: Effect of Two Types of Exploitation in Japanese Video Game Industry”, 単著, Journal of Digital Life, 2(7), 2022 年 4 月 1 日</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>「大規模自然災害前後における企業の探索的・活用的行動の変化 —東日本大震災におけるテキスト分析—」、単著、『千葉商大論叢』、60(3)、pp.145-156、2023 年 3 月 31 日</p> <p>【学会発表等】</p> <p>「両利きにおける 2 つの活用と業績の関係性—日本のゲーム産業における実証分析—」、2022 年度組織学会研究発表大会、東北大学、単独、2022 年 6 月 4 日</p> <p>3. 主な経費</p> <p>主にデータ分析のためのデータ購入や分析のための PC の購入に経費を使用した。また研究に関わる書籍の購入などにも使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【科学研究費】</p> <p>基盤研究（C）：2022 年度～2025 年度、代表、「大規模自然災害が企業の探索的行動に与える影響—東日本大震災前後における実証分析—」（22K01680）</p> <p style="text-align: right;">（本文は <u>2 ページ以内</u> にまとめること）</p>					